

經典餘師

書經

二

口 11

1029

24



夏書

禹貢

禹土と敷山と隨
大川と冀州
既壺口と載
梁及岐と治
既大原と修
岳陽于至
懷績と底
衡漳于至

夏書

夏禹の御代と有る其御代の記録是

禹貢

禹王天下を平定する

禹敷土隨山刊木奠高山大川冀州

既載壺口治梁及岐既修太原至于

岳陽覃懷底績至于衡漳

時洪水と治り天下の土地を敷く九州と
山と隨く木と刊し道をつくト高
山大川とあり冀州の壺口山の下より載く東より西へ
第一番と冀州と田畠の三段貢賦の上中下と
冀州の壺口山の下より載く東より西へ
梁山岐山と治り其の中央へひく大原へ出
て土地と修理し大岳と霍大山と
其の岳の陽と大原と覃懷の平地より家宅田

厥土白壤厥賦惟上錯中中

○厥土
皇等とくく績と成とける衡
漳の水とく修理一
天下と治と法民の田農を先と以て城を思ふもの
と貧乏寒餓とくくとくく教訓と守とくく禹
王大徳とくく天下の土と性とを
とくくとくく賦とくく米穀のけりた
一と第ニとくく田の性の中の中とくく第三段と
○恒

恒衛既從大陸既作夷服夾右河

衛既從大陸既作島夷皮服夾右碣石入于河
恒の水衛の水此ふりの川水ふと
くく大陸とくく廣野の田地とくく耕作とくく
きやうに水のせとくく海中とくく鳥の夷人も帰
服とくく衣服と貢税とくく王朝とくく
碣石山と右とくく黄河とくく未とくく入とくく

濟河惟兗州九河既道雷夏既澤

○濟河惟兗州九河既道雷夏既澤
東南のくく濟河あり西北と黄河とくく黄河の末
東と出とくく九派とくく洪水とくく道とくく
分とくく是と雷夏とくく水とくく大とくく
沢とくく是と雷夏とくく水とくく大とくく
人とくく此沢にとくく水とくく大とくく
人とくく高丘とくく降とくく平土とくく宅とくく
桑とくく

厥土黑墳厥草惟條厥田惟中下厥賦

○厥土黑墳厥草惟條厥田惟中下厥賦
惟條厥田惟中下厥賦負作十有三
載乃同厥貢漆絲厥篚織文浮于濟
漚達于河
此土の色と黒とくく土の性墳とくく
煙草とくく土の性墳とくく

絲厥篚織文濟

澤于浮于河干

達

海岱惟青州

嵎夷既

濰淄其道厥

土白墳海濱廣

斥厥田惟上

厥賦中上厥貢

鹽絺海物惟錯

惟岱畎絲泉

鉛松怪石萊夷

牧作厥篚

六民所之草絲也木也條長也田之位也第
十之四三載一也他之國同之例也上之獻
上之納貢也漆也此之絲也織文也

○海岱惟青州嵎夷既

濰淄其道厥土白墳海濱廣斥厥

田惟上下厥賦中上厥貢鹽絺海物

惟岱畎絲泉鉛松怪石萊夷作牧

厥篚壓絲浮于汶達于濟

○海岱惟青州嵎夷既

厥篚壓絲浮于汶達于濟

○海岱惟青州嵎夷既

濰淄其道厥土白墳海濱廣斥厥

田惟上下厥賦中上厥貢鹽絺海物

惟岱畎絲泉鉛松怪石萊夷作牧

厥篚壓絲浮于汶達于濟

○海岱惟青州嵎夷既

濰淄其道厥土白墳海濱廣斥厥

田惟上下厥賦中上厥貢鹽絺海物

海岱及淮惟徐州
大野既豬東原底
平厥土赤埴墳草木漸包厥田惟上
中厥賦中中厥貢惟土五色羽畎

○海岱及淮惟徐州淮

漸包一厥田惟上
 の中厥賦の中の中
 厥貢惟土五色羽
 畎の夏翟嶧陽の
 孤桐泗濱の浮磬
 淮夷の蠙珠暨魚
 厥篚玄纁綺縠
 淮泗于浮んで河
 于達す

淮海惟揚州
 王彭蠡既猪

翟嶧陽孤桐泗濱浮磬淮夷蠙珠暨
 魚厥篚玄纁綺縠浮于淮泗達于河

○淮海惟揚州彭蠡既猪陽鳥攸居
 徐州の北の山に南の淮の間に
 五穀種類の甚く樹木あり水は廣大野
 東原の地を平く耕作と底より
 此地の土赤く墳墓あり
 漸包て多き所なり貢りけり
 青黄赤白黒五色の土此所より出づ
 羽山乃畎
 生ず孤桐並に泗水の濱より浮んで
 石あり音樂の磬は此の淮の夷より貢る
 蚌の真珠とて結ぶ玄纁綺縠等々
 淮海と泗水の川より黄河へ達す

陽鳥の居攸三江
 既震澤底定篠簜既敷厥草
 既敷厥章惟
 天厥木惟喬
 土惟塗泥厥田
 惟下下厥賦
 下上錯厥貢
 惟金三品
 瑶琨篠簜
 齒莖羽毛
 惟木島夷
 卉服
 織貝厥包
 櫛櫛
 錫貢
 于江海
 達于淮泗

三江既入震澤底定篠簜既敷厥草
 惟天厥木惟喬厥土惟塗泥厥田惟
 下下厥賦下上錯厥貢惟金三品
 瑶琨篠簜齒莖羽毛惟木島夷卉服
 織貝厥包櫛櫛錫貢沿于江海
 達于淮泗

揚州の北の淮水より南の
 平地乃洪水なり
 引いて彭蠡の湖に水猪く
 りぬ毎年陽鳥の所より居たり
 松江の末より
 呉の震沢に水より定まりて平地なる
 所より喬ある木あり土は塗泥より下々の

荊及衡陽惟
荊州江漢漢朝
宗九江孔殷沱
沱潛既道
雲土夢作
土惟塗泥厥田
惟下中厥賦
惟金三品
毛齒草惟金三品

田地一第六んは賦税七んめやまう
貢のの金銀にを納る三と瑤琨にを納る
玉象を齒犀を草の羽毛をくすろの木
いつく南海の島をいとい舟服と上納に筐の
ふを納るのたり其ちを包りて一箱抽あり
命と錫のの上貢ありひの
海より江に沿う淮と泗の
河とろつるを達とあり
○荊及衡陽
惟荊州江漢朝宗于海九江孔殷沱
潛既道雲土夢作又厥土惟塗泥厥
田惟下中厥賦上下厥貢羽毛齒草
惟金三品柎榦栝柏礪砥磬丹惟齒
簠簋三邦底貢厥名包匭菁茅厥篚

柎榦栝柏礪砥磬
丹惟齒簠簋三邦
厥名底貢包匭菁
茅厥篚
玄纁璣組九江
大龜納錫江
沱潛漢于浮于
洛于逾于南河于
至

荊河惟豫州伊
洛廕間既河于

玄纁璣組九江納錫大龜浮于江沱
潛漢逾于洛至于南河
南の江と漢の二の川も此の海へ入る
入る大小名の天子は朝宗とあり
洞庭のてあり水のて殷のてあり
沱と潜は二の川も道なり舟より雲の沢も木
の水中の高の土あり夢の沢より入る
農作もてむる此の土もてむる
下の中へ賦も第三の位あり貢の鳥の
羽毛象齒けの草金銀の礪砥矢の磬丹
朱齒簠簋此のふくは三の邦より底貢
は名物なり又みうんは酒をさむ昔茅玄
纁璣組をいづも匭包の外九江に
沱と潜と漢とよりの川より洛の
地をさへる南河といふ
○荊河惟豫

入榮波既入猪
荷澤と導い孟
猪に被らひ厥
土を惟壤あり下
土墳壚厥田を惟
中の上厥賦上中
と錯中厥貢と漆
泉締紵厥篚の
織績あり錫
て磬錯と貢とい
洛于浮ん河于
達す

州伊洛瀍澗既入于河榮波既猪導
荷澤被孟猪厥土惟壤下土墳壚厥
田惟中上厥賦錯上中厥貢漆泉締
紵厥篚織績錫貢磬錯浮于洛達于
河
豫州の国乃西南と荆山と
河より北より黄河より伊水洛水瀍水
澗水の四北川も黄河より入る
沢も波より入る川も水たまりより入る
つるつる荷より入る水たまりより入る
の位と中より入る
織績と貢とい
磬より玉と貢とい
錯石より貢とい

華陽黒水惟梁
州あり岷番既
藝沱潛既道す
蔡蒙旅平
夷績と底す厥土
青黎厥田惟
下の上厥賦下
中三錯と

厥貢
磐磬熊羆狐狸
織皮西傾桓
因
是來
浮于
逾

經史餘考

華陽
命と錫とい
黄河より達けり
黒水惟梁州岷番既藝沱潛既道蔡
蒙旅平和夷底績厥土青黎厥田惟
下上厥賦下中三錯
乃梁州の土地と華陽山
乃陽より西と
黒水より
ののた
山蒙山とい
土地より治
土下と中
青
鐵銀鏤磐磬熊羆狐狸織皮西傾因
桓是來浮于潛逾于汚入于渭亂于

經史餘考

渭于入河于亂

黑水西河惟雍

州弱水既西

涇渭内屬

漆沮既從

豐水同攸

荊岐既旅終

南惇物至于鳥鼠

于至原隰績

底于猪野于至

三危既宅

三苗丕叙

河貢其珍鐵銀鏤之矢的磐石

布帛皮肉之類西傾山下之水

黑水西河惟雍州

弱水既西涇屬渭内漆沮既從豐水

攸同荊岐既旅終南惇物至于鳥鼠

原隰底績至于猪野三危既宅三苗

丕叙

本

渭内屬漆沮

荆岐山

厥土惟黃壤厥

田惟上的上厥

賦中下厥貢

惟球琳琅玕

積石于浮

龍門西河于至

渭内于會

織皮崑崙析支

渠搜西戎即

叙

厥土惟黃

壤厥田惟上上厥賦中下厥貢惟球

琳琅玕浮于積石至于龍門西河會

于渭内

獻上貢之球琳

織

皮崑崙析支渠搜西戎即叙

岍及岐導于荆
 山于至河于逾
 壺口雷首于太
 岳于至底柱
 城于王屋于至
 太行恒山于
 碣石于至海
 西傾朱圉鳥鼠
 至太華于至熊
 耳外方桐栢
 陪尾于至

の三国と比西乃戎戎名あり獸の皮乃衣服なり
 化朝と西戎の地叙王
 導岍及岐至于荆
 山逾于河壺口雷首至于太岳底柱
 析城至于王屋太行恒山至于碣石
 入于海
 乃下河と逾又壺口雷首を
 歷大岳又底柱析城王屋山の方
 西傾朱圉鳥鼠の三山と雍州
 于陪尾
 西傾朱圉鳥鼠の三山と雍州
 南より夫より大華山と雍州

岍家導于至
 荆山于至内方
 大别于至

岍山之陽
 于至九江
 敷淺原于至

弱水導于至
 合黎于至餘波
 流沙于入

黑水導于至
 三危于至南海

岍家至于荆山内方至于大别
 之陽至于衡山過九江至于敷淺原
 導弱水至于合黎餘波入于流沙
 至于三危入于南海導河積石至于

于河導之
積石于龍門于
至南華陰于至
至東底柱于
至又東孟
津至東洛汭
過大伾于至
北降水過
大陸于至又北播
九河為同逆
河為海于入嶧家
樣導之東
流漢為
又東滄浪乃
水為三澨過

龍門南至于華陰東至于底柱又東
至于孟津東過洛汭至于大伾北過
洛水至于大陸又北播為九河同為
逆河入于海嶧家導漾東流為漢又
東為滄浪之水過三澨至于大別南
入于江東匯澤為彭蠡東為北江入
于海黑水之方北南三危之歷南
海入于黃河導之積石于龍
門又南華陰山入于東底柱
山入于東孟津乃東入于底
柱山入于東孟津乃東入于底
柱山入于東孟津乃東入于底
柱山入于東孟津乃東入于底

大別于至南江
于東匯澤彭
蠡為東北
江為海于入
岷山江導之
東別之沱為
又東澧于至九江
過東陵於至東
迤北會之匯
為東中江為
海于流水道
東流濟為
河于入溢采為東
陶丘北于出又東
荷于至又東北

導江東別為沱又東至于澧過九江
至于東陵東迤北會為匯東為中江
入于海導沅水東流為濟入于河溢
為榮東出于陶丘北又東至于荷又
東北會于汶又北東入于海導淮自
桐柏東會于泗沂東入于海導渭自
○岷山

鳥鼠同穴。東會于澧。又東會于涇。又東過漆沮入于河。導洛自熊耳。東北會于澗。澧又東會于伊。又東北入于河。

川滌源九澤既陂四海會同

九州同さ攸四隅
既々宅一九山刊
旅一九川源と滌
九澤既々陂一
四海會同す

○六府孔修二度一

邦こくに水みづ火くわ金きん木もく土ど穀こくの六む府ふもろろ修しゆの
土つち地ちも高たかと下ひくき肥ひちもろ瘠やせとろ度たいも交まじり

○錫土姓祗台德

朕行と距不

五百里甸服
百里賦納總二
百里銓納三
百里結納服
四百里粟五
百里采五百
里男邦三
百里諸侯五
里綏服三百
文教と揆三百

先不距朕行

天子より土地と天子の国と立

身と地の身乃徳と祗と人先と示

○五百里甸服百里賦納總二百里

納銓三百里納結服四百里粟五百里

采五百里侯服百里采二百里男邦

三百里諸侯五百里綏服三百里揆

文教二百里奮武衛五百里要服三

百里夷二百里蔡五百里荒服三百

里蠻二百里流

天子の邦乃幾と内と千

武衛と奮五百
里要服三百
里夷二百里蔡五
百里荒服三百
里蠻二百里流

名づけられ外と多いところ右邦幾十
里とらる王城と中東西南北五百里
の地五百里と五段の地百里の地の
年具と刈り糴とものなり納のり總て
の半分の銓と納と又と次乃百里
と糴乃皮とこの此結と名づけ又と次
乃百里と粟と糴と米のものと米との
次の百里と賦と初又邦幾の外五百里と侯服と
米と初又邦幾の外五百里と侯服と
乃諸大夫卿男の領地と外と三百里と大小侯
の領分と初又右侯服と外五百里と綏服乃地
と内三百里と米と文教の教と以て治り度らへ
や乃次乃二百里と武衛と奮と衛と国民と綏
なりとさしてさくは綏服の外五百里と要服と
名づく要約覇康とさくは必竟とさくは
ふまぐたり夷と浪とさくはさくは次の二百

東海于漸（漸水）西流
 沙于被（被）朔南聲教
 暨四海于訖（訖）
 禹玄圭（玄圭）錫（錫）厥
 成功（成功）告（告）

里三百里の治うとと禁
 叔もその次の五百里と荒服と名づく荒野乃
 時々来朝とてその外三百里と蠻夷と名づけ
 人と流と總計とて王城と中とて一（一）方二千五
 百里とて東西南北五千里四方より上（上）文より五服と
 強成る五千里に至る人馬なり実と西南の十
 分より東北と里數大なるなり然る諸説
 紛々たるを穿て過るを考へて諸説
 漸于海西被于流沙朔南暨聲教訖
 于四海禹錫玄圭告厥成功（東海）
 漸（漸）水朝（朝）雲中流沙（流沙）西玉門外の流沙
 海（海）南（南）粵（粵）乃限（乃限）聲教（聲教）暨（暨）四方の海邊
 錫（錫）禹（禹）功（功）の成就（成就）とてやめり

乃告（乃告）之（之）
 乃告（乃告）之（之）

甘誓

邑扈氏謀（邑扈氏謀）反（反）王（王）王（王）乃（乃）誓（誓）之（之）
 地（地）於（於）軍（軍）法（法）の誓（誓）とて

大戰于甘乃召六卿王曰嗟六事之

人予誓告汝有扈氏威侮五行怠棄

三正天用勦絕其命今予惟恭行天

之罰

天子征伐（天子征伐）一萬二千五百人なりやの大將と卿と

大に甘于戰（大に甘于戰）
 乃召六卿（乃召六卿）王曰（王曰）嗟六事（嗟六事）
 王の曰く嗟六事（王の曰く嗟六事）
 之人予誓告汝（之人予誓告汝）
 告有扈氏（告有扈氏）五（五）
 行（行）威侮（威侮）一（一）三（三）
 正（正）怠棄（怠棄）天（天）
 用（用）其命（其命）勦（勦）
 絶（絶）今予惟恭（今予惟恭）
 行（行）天之罰（天之罰）

六軍ハ六卿一此とつて七カ五千人なり
 王召をせられ誓の言と告示一とて六軍
 の事とつて大將今有扈の君威を
 あり水火金木土乃五行と侮より天地人三の正
 天命と棄怠より民をめぐむるを
 天命とつて天より勦絶がこれに因る

左王左于と攻え
不汝命と恭ま
攻め不汝命と
恭ま御
其馬之正非
ふ汝命と恭ま
さる命と用祖
于賞ん命と用
不社于戮せん
予則汝と撃
戮ん

恭天罰と行かん
○左不
攻于左汝不恭命右不攻于右汝不
恭命御非其馬之正汝不恭命用命
賞于祖不用命戮于社予則撃戮汝
古く多し車の戦ふは車の上を大将三人は
一人は左に在りて右に用ひ右に戦と用ひ中
央と前とありて馬と御し車を進退せしむ
今因る号令とて示し今日戦
ふは此の全く射手乃の命と云ふことなり
の右の備乃の命と云ふことなり
正し御者乃の命と云ふことなり
二十四人づの士卒を合し車の上の三人の長

五子之歌

太康尸位逸豫
以て厥徳を滅す
黎民咸貳
乃盤遊度
無有洛之表于
敗して十旬及
弗有窮の後羿
民の忍弗と因て
河于距

五子之歌

禹王の皇孫太康と云ふ初
のたふ不徳と云ふ後善君と

と七十五人と一車の兵と云ふ右の人数大将の命と云ふ
守る先祖廟前乃庭に在りて思賞と云ふことなり
命と云ふことなり地神に事するなり
妻孥等と云ふことなり刑戮を施すことなり
太康尸位以逸豫滅厥徳黎民咸貳
乃盤遊無度敗于有洛之表十旬弗
反有窮后羿因民弗忍距于河
天子の位と尸と云ふことなり天下乃政務と云ふことなり
逸豫と云ふことなり長と云ふことなり君と云ふことなり徳
と消滅と云ふことなり因る黎民と云ふことなり貳と云ふことなり然
と洛水乃表と云ふことなり敗殛と云ふことなり無度と云ふことなり
盤遊と云ふことなり十旬と云ふことなり王都と云ふことなり反と云ふことなり此
虚と云ふことなり有窮の君名と云ふことなり羿と云ふことなり人ひと云ふことなり

厥弟五人其母
御之洛之汭于後五
子咸怨大禹之
戒述之以歌
と作る

其二曰皇祖訓
有民近不可
下不可不民惟
邦之本固
邦寧予天下
と視愚夫愚婦

の不仁なるに怒るに示し人衆を引つ
て洛水に臨み帝を弔ふ
○厥弟五人

御其母以從後于洛之汭五子咸怨
述大禹之戒以作歌
弟五人太后乃御

從兄君の位をうけ家のおもひを怨む
御先祖禹王の作らせし戒の歌
○其二

曰皇祖有訓民可近不可下民惟邦
本本固邦寧予視天下愚夫愚婦一
能勝予一人三失怨豈在明不見是

も一能予勝
一人三失怨
豈明在んや見
不是圖予兆
民臨凜乎と
朽索之六馬
と駁さる若
人の上爲者奈
何と敬せん

其二曰訓
有内色荒作
外禽荒作

圖予臨兆民凜乎若朽索之駁六馬
爲人上者奈何不敬
予視天下愚夫愚婦一能勝予一人三失怨豈在明不見是
度三度と失過する時民ついに怨むふくむ
民乃心の明りと待ち敬むをおそく益
事はささめ見ふに圖累べ兆の民
君とあつた朽索と六馬と駁さる
○其二曰訓有之内作
色荒外作禽荒甘酒嗜音峻宇雕牆

酒と甘い音と
峻宇雕牆此
于一有亡び不
と或未

其二三曰く惟彼
陶唐此冀方と有
今厥道と失い其
紀綱と乱る乃ち
滅亡と底と

其四そのいひ又曰またいひく明明めいめいと
ふ我祖われそと萬邦よろこ之君のきみ
典有則のり有あ其子孫そのこそん
に貽のこと關石くわんせき和鈞わこん

王府則有厥緒と
荒墜して宗と覆
へー祀と絶

其五そのご曰いく鳴呼なりけ
曷いかんん歸かへんん予われ之の
と懷おもて悲かなひ萬姓ばんせい
予われと仇あひとは予われ將まさ
疇さう々々依よ窮きう陶たう乎や
予われ心こころ顔かほ厚あつ
慙うらやま泥どろ々々有あ燧たい
德とくと慎しん弗ふ悔くわいと雖なほ
追お可べ々々や

胤征

惟仲康肇位四海

胤侯命掌六師義

和廢厥職酒荒于厥邑胤后承王命

祖征

衆于告て曰く嗟

予有衆聖に謨

訓有明徴

て定保先克

天戒と謹と臣人

胤征

胤と國の名なり仲康はつへく六軍の兵と掌と帝の詔とをけく

義和氏の罪と征せ

惟仲康肇位四海胤侯命掌六師義

和廢厥職酒荒于厥邑胤后承王命

祖征

衆于告て曰く嗟

予有衆聖に謨

訓有明徴

て定保先克

天戒と謹と臣人

克常憲有

百官修輔厥后惟明々

每歲孟春道人

木鐸と以て路于

徇官師相規一

以て諫其不恭

或ハ邦ニ常刑有

明。それゆへに百の官人の職を奉ることを明々

○百官修輔厥后惟明

每歲孟春道人以木鐸徇于路官

師相規工執藝事以諫其或不恭邦

有常刑

そのやうな萬の藝能の事として執る常法はたがひ

一とて諫言するところから各のちからを

石俱焚。天吏逸德。烈于猛火。殲厥渠魁。脅從罔治。舊染汙俗。咸新。

嗚呼。威厥愛克。允濟。愛克厥威。允罔功。其再衆士懋戒哉。

炎皇周。玉石俱焚。天吏逸德。烈于猛火。殲厥渠魁。脅從罔治。舊染汙俗。咸與惟新。○嗚乎。威克厥愛。允濟。愛克厥威。允罔功。其爾衆士懋戒哉。

嗚呼。威厥愛克。允濟。愛克厥威。允罔功。其再衆士懋戒哉。

